

事業者応援給付金対象拡大などで14億円追加

臨時議会が7月29日、開催されました。議案は一般会計補正予算等3議案、いずれも新型コロナウイルス対策関連経費が計上されたもので、総括質疑、委員会審査を経て、全会一致で可決されました。

このうち一般会計補正予算は、歳入歳出予算総額に14億2563万円を追加するもので、予算規模は1156億6210万円となりました。

歳出予算の主なものは、

- トキ鉄、北越急行の鉄道車両や駅舎、市内運行の路線バスとタクシーへの感染防止対策のための衛生設備や物品の購入経費の一部を補助。10665万円。
- 病児保育室がサービス提供体制を維持できるように事業運営委託料を増額。405万円。
- 私立保育園及び認定こども園のマスク

や消毒液、備品等の感染防止物品の購入などへの補助金を増額。小・中学校に配備する感染防止物品の購入経費を増額。休日・夜間診療所、安塚診療所など市の診療所の感染防止物品の配備や設備の整備経費を増額。4500万円。

●上越産品に特化したインターネットショッピングモールを活用した販売拡大を支援。400万円。

●新型コロナウイルス感染症の影響により売上が前年比20～50%減少している市内中小業者（2784事業者を見込んでいる）をにたいして10万円の事業者応援給付金を支給。2億7840万円。

上越商工会議所、各区商工会における人件費、施設改修費、会費減免分の補てんなどを支援するための商工団体臨時給付金。2691万円。

●事業者が感染予防のために行う店舗等の改装工事費への補助金等を増額（申請受付期間12月28日までの延長対応分）3億400万円。

●中小企業者チャレンジ応援事業補助金。コロナ禍による経営環境の変化をとらえた事業者の取組を促すため、中小企業者を取り組む新たな事業展開にたいする支援を行うもの。2億円。

議案にたいする総括質疑には杉田勝典、平良木哲也、宮越馨の3議員が登壇し、質疑を行いました。イラストは平良木議員の総括質疑の様子です。内容は次号でお知らせします。



「面白いな」「楽しいな」が輪を広げていくカギ

地域密着型の公民館活動で頑張っている柿崎地区公民館下黒川分館の活動を学ぶ講演会が7月24日にあり、参加してきました。「郷土の地名と歴史を訪ねる会」と「住民自治を進める会」の共催。下黒川分館運営委員の角張寛美さんが講師でした。

下黒川分館の活動は、盆踊り「十三夜」の伝承、48年も続いている手工教室、講演会「よもやま話」、「下黒川分館だより」の発行等、じつに幅広く取り組まれていることを知り、びっくりしました。

小刀を使った鉛筆削りから始まる手工教室は、竹笛を作り、音が出るとなると子どもたちが夢中になる。子どもたちをサポートする高齢者も活動の中で生き生きしてくる。書き初め教室は、3回目になると、線の引き方、間のとおり方などを覚え、上手くなるの

で人気だ。角張さんの話は実に具体的丁寧です。ぐんぐん引き込まれました。

話の中で強く印象に残ったのは、公民館の活動を進めていくうえで、「面白いな」「楽しいな」という思いを知ってもらい、輪を広げていくことがカギということでした。これがあると長続きすることでした。当たり前のことではありますが、実際の事業の中でこれを貫いてこられたのはすごいことです。



【クサアジサイ】アジサイ科の多年草。漢字で「草紫陽花」と書きます。花期は7月から10月です。私は白い花しか見ていませんが、淡紅色の花もあるそうです。花言葉は「移り気」。どうして、そんな花言葉になったのでしょうか。写真は19日、吉川区の山間部にて撮りました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1970 2020.8.2
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見てある記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第六一七回

紛失騒動

先日、母がお世話になった病院の先生から診断書をもらうにあたって必要な文書が「行方不明」と書きましたが、管理していたのは私です。「失くしてしまった」と言った方が正確かも知れませんが。

家族の者からは「大事なものを決まった場所に置かないからこういうことになる」と責められました。私は、一〇日ほど前に文書を手にしたときにさかのぼり、文書を置いたと思われる場所、保管したと思われるカバンや机の中などを数時間かけて探しました。でも、見つかりませんでした。

私が大事なものを失くして大騒ぎすることとは今に始まったことではありません。学校に通い始めた頃から今日に至るまで、大切なものを失くした事例は一〇本の指で数えることができないくらいあります。

失くしたもののほとんどは、そう長い期間をかけずに出てきましたが、いまだにわからず仕舞いなのがいっぱいあります。

一番忘れることのできないものは小学一年生のときの通知表です。通知表には児童について評価する欄があって、担任の山田利（やまだ・とし）先生（当時。その後、先生は結婚されて小島姓にかわりました）は私について、「仕事はのろいが、最後までがんばる」と書いてくれたのです。

この言葉は、これまでずっと私を励まし続けてくれました。どんな困難にぶつかっても、オシは最後にはちゃんとできる。そう思うと自信をもって何事にも向かうことができました。それだけに先生が書いてくださった通知表を大事にしていたのです。

が、じつは二十数年前、旧源農協の二階で行った同級会を最後にその通知表はどこにあるかわからなくなりました。

その同級会では、利先生が来賓として初めて出席されました。私は通知表をその場に持ち込み、みんなの前で、「先生のこの

言葉のおかげでがんばることができました」と先生に感謝の言葉を伝えました。利先生は、はずかしそうにしながらもとても喜んでくださいました。先生のその姿を見た私は涙が溢れ出しました。

その後、お酒に酔って、元の場所には思い出したのでしようね。私の通知表は現在、小学二年生から高校三年生までであるものの、一番大事にしていた小学一年生時の通知表が欠落したままになっています。

話を元に戻しましょう。私が病院からの診断書をもらうための文書を一生懸命探したのには他にも理由がありました。文書と共に母の後期高齢者医療被保険者証、診察券も一緒だったのです。いずれも大事なものです。私は、失くしたことがわかった日

だけでなく、その翌日も改めてカバンや机などを探しました。どこを探しても出てこないことが明らかになった段階で、私はすべ

て再発行してもらおう覚悟を決めて、病院へ行くことにしました。

病院の駐車場に着いて、私は念のためもう一度、車の中にあるボックスを開いてみました。車検証や車の整備記録、保険証券

入れなどを一つひとつめくり、もうないかと諦めかけたときでした。まさかと思いましたが、探していた文書とそれに包まれていた後期高齢者医療被保険者証等があるじゃありませんか。ボックスの中は前の日もすべてチェックしたはずなのですが、いったい、どこに「隠れていた」のでしょうか。何故、見つからなかったのか、いまでも不思議でなりません。前の晩、良い結果を予感させることが起きていました。利先生が生前、私にくださった最後のハガキが出てきたのです。「努力は何ものにも勝る」と書かれたハガキでした。このハガキもかなり前に失くしてしまいました。ひよっとすると、二十数年前に失くした通知表も近々出てくるかも知れません。

無印の地域交流スペースで「懐かしの祇園祭」展



7月27日、直江津の無印良品の一角にある地域交流スペースで開催されていた「懐かしの祇園祭」展を観てきました。

直江津の祇園祭の昔の写真やイラストレーター、ひぐちキミヨさんの絵はがきなどが展示されていました。昔の祇園祭の写真は初めてみましたが、みんな楽しそうで、いい顔していましたね。ひぐちキミヨさんの絵に描かれている人たちもそうです。これで、エルメールの外で太鼓の音でもすれば最高なのですが。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月22日(水)	7月29日(水)
上越南消防署	0.053	0.053
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.043	0.043
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.050	0.053
名立分遣所	0.050	0.057
高士分遣所	0.053	0.057

市道を見下ろす場所に100本超すヤマユリ



大島区相岡に100本を超すヤマユリが咲いています。場所は武田板金さんの住宅及び高野さんの住宅がある場所の近くです。市道の土手の上に咲くヤマユリの群落は長さが約30m。花の数は1000個を超えるでしょう。見事な花に圧倒されました。